

外来患者と入院患者における透析室スタッフの患者対応時間についての比較

1)東京慈恵会医科大学附属病院 臨床工学部

2)東京慈恵会医科大学附属病院 腎臓・高血圧内科

渡辺 弦輝¹⁾、児島 徹¹⁾、堀川 麻衣子¹⁾、石川 尚生¹⁾、滝澤 啓太¹⁾、渡邊 尚¹⁾、
岩谷 理恵子¹⁾、平塚 明倫¹⁾、山本 泉²⁾、丸山 之雄²⁾、大城戸 一郎²⁾、横尾 隆²⁾

【はじめに】

透析室における適正な人員配置を検討する指標の一つに患者数がある。しかし、入院患者と外来患者では同じ患者数でも係わる人員に差が生じる可能性がある。そこで、外来患者と入院患者におけるスタッフの患者対応時間を調査した。

【対象・除外基準】

対象はバイタルの安定している4時間透析の入院患者5名、外来患者5名とし、動脈表在化や人工血管等の徒手止血が必要な患者は除外した。

【方法】

- ① 患者1名に対する医師・看護師・臨床工学技士の患者対応にかかる時間を調査した。
- ② 記録の標準化のため、患者対応に関する項目を業務マニュアルから抽出して(図1)、調査用紙を作成した。(図2)
- ③ 調査用紙には、各項目に要した時間を記録した。
- ④ 独立した調査者が時間を計測して記録した。なお、調査者以外のスタッフは対象を知らない状況とした。
- ⑤ 外来・入院患者の患者対応に関わった平均業務時間を比較した。

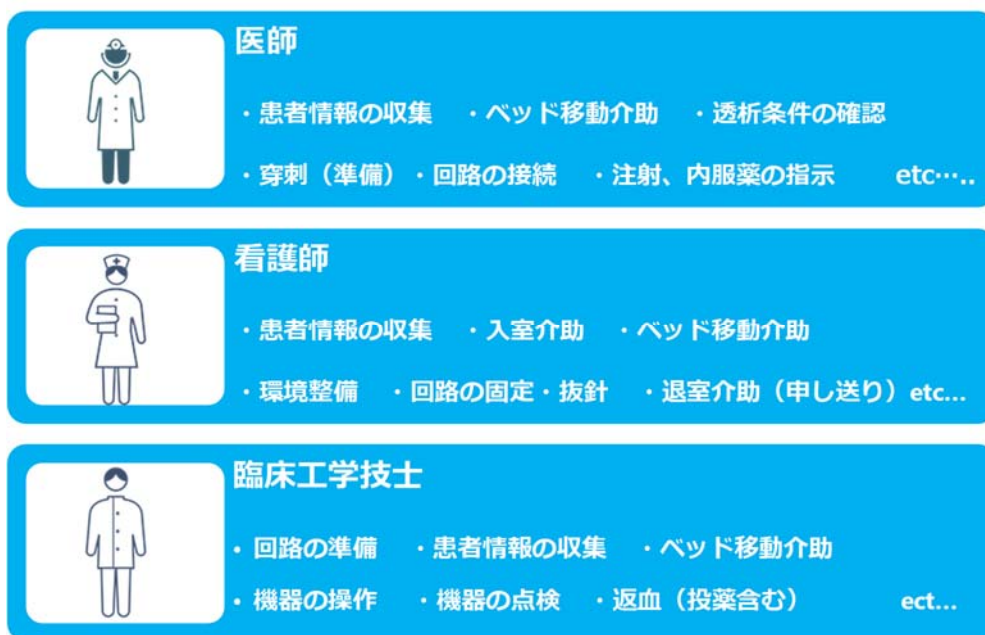


図 1 当院における透析室の業務分担

業務量調査

日付 _____ BED _____ AM or PM _____
透析時間 _____

時間	医師	臨床工学技士	看護師
8:00			
9:00	A(穿刺)		
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			

A:穿刺 B:情報収集 C:移動介助
 D:機器操作 E:機器点検 F:記録の入力 G:返血(投薬)
 H:入室介助 I:環境整備 K:回路の固定 L:情報収取
 M:抜針 N:退室介助

※その他の手技があった場合、手書きにて記載をお願いします。

医師

- A:穿刺（準備） B:情報収集
- C:移動介助

臨床工学技士

- D:機器操作 E:機器点検
- F:記録の入力 G:返血(投薬)

看護師

- H:入室介助 J:環境整備
- K:回路の固定 N:情報収取
- M:抜針 L:退室介助

※その他の手技があった場合、手書きにて記載する。

図 2 調査に用いた記録用紙

【記録時の条件】

- ① 調査者は事前に記録方法のレクチャーを受ける。
- ② 時間の記録は患者入室から退室までとする。
- ③ 患者入室前の情報収集や、薬剤、回路の準備等の時間は記録しない。
- ④ 透析中、ベッドサイドでのカルテ記載時間は記録する。

【結果】

外来患者と入院患者における患者 1 人あたりの平均業務時間（分）は医師 6.8 ± 1.9 vs 12.4 ± 7.9 ($P=0.20$)、看護師 24.2 ± 6.3 vs 24.2 ± 7.0 ($P=1.00$)、臨床工学技士 16.6 ± 4.6 vs 30.4 ± 12.8 ($P=0.08$) であり、統計学的な有意差はなかった。(図 3・4)

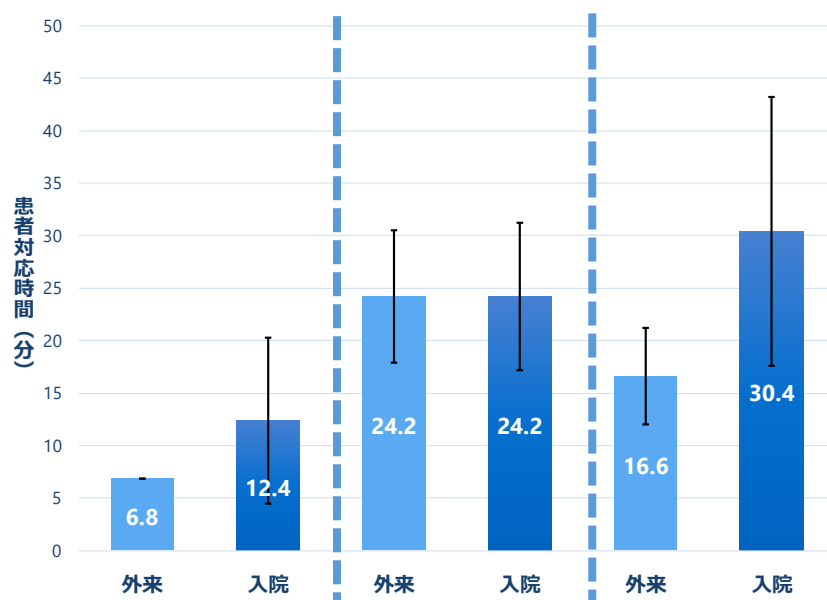
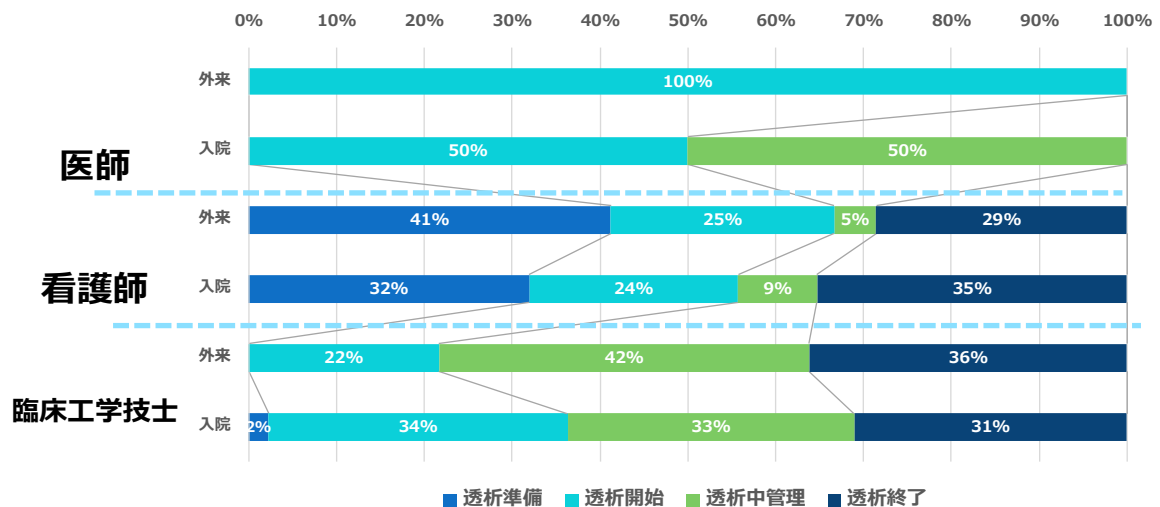


図 3 患者対応時間の比較



職種	透析準備	透析開始	透析中管理	透析終了時
医師	・ ベッド移動	・ 透析条件の確認 ・ 穿刺・回路の接続	・ 患者情報の収集 ・ 注射、内服の指示	
看護師	・ 入室介助 ・ 採血・検査の確認 ・ 患者情報の確認	・ 回路の固定 ・ 血圧測定	・ 記録の記載・患者ケア ・ バイタル確認	・ 抜針 ・ 体重測定 ・ 申し送り
臨床工学技士	・ ベッド移動	・ 機器操作 ・ 透析条件の設定	・ 記録の記載・回路交換 ・ 機器の使用 midpoint 検 ・ 一時的な離脱の操作	・ 返血 ・ 採血 ・ 投薬

図 4 職種別対応内容の比較

【考察】

医師、臨床工学技士においては入院患者に係る時間が増加する傾向にあった。看護師が係わる時間に差が無い傾向となったのは、外来患者への指導や傾聴に時間が掛かった事が考えられる。

【結語】

今回の方法では外来患者と入院患者におけるスタッフの患者対応時間に顕著な差は無かった。医師・臨床工学技士の人員配置を行う際、入院患者の対応に時間がかかる傾向にあるため、入院患者、外来患者の割合には注意が必要である。